

## 記念号に寄せて

経済学部長 渡辺 精一

村尾質先生は、平成七年三月三日をもって、本学経済学部を定年でご退職になりました。昭和五十一年一〇月に本学部に教授としてご赴任になって以来、一八年六月の長い期間にわたるご在職でした。その間、昭和五九年三月には法政大学から博士（経済学）の学位を授与され、また学生部副部長、第二部教務部副部長などの学内要職を歴任されるなど、直接もしくは間接に、本学および経済学部のために多大の貢献をされてまいりました。ここに改めて感謝申し上げますとともに、ご退職を深く惜しむものであります。

先生が歩んでこられたこれまでの人生は、まことに多様でした。時代の要請に応じて陸軍幼年学校、予科士官学校を経て航空士官学校をご卒業になったあと、戦後は機械製作所や調査研究機関に籍を置かれ、やがて日通総合研究所の主任研究員として敏腕を振われることになります。さらに、同研究所にご在職の期間、法政大学に学び、最終的に同大学大学院社会科学研究所経済学専攻博士過程を単位取得満期退学されました。経歴の多様さのなかに、先生の不屈の心を垣間見るのは、極めて容易であります。

不屈の心は、本学本学部にご赴任のあとも、保持されました。たとえば研究の面では、量質ともに水準の高い業績

をあげてくれました。ご赴任前からご関心の高かった自動車による貨物輸送の問題は、昭和五七年の学位論文『貨物輸送の自動車化―戦後過程の経済分析』で結実しました。それは続いて『道路貨物輸送』に展開します。こうした主たるご関心は、道路輸送と社会的費用の領域へ広がり、いわゆる物流公害への造詣を深めます。のみならず、公共交通財政政策や、交通市場など、研究分野は多彩な広がりを見せて行きます。本学部でご担当戴いた科目は交通論でしたが、ご関心領域が展開されつつも、むしろ展開されるなかで、先生が折り折りに口にされておられたように、それは交通論というよりも、交通経済論としての性格が明らかにされてきたといえそうです。

先生はまた、率直な性格を合わせもっておられました。たとえば、理解ができかねたり、合点がゆきかねたりすることに出逢ったときは、教授会の席などでも、ためらわずに発言されました。率直さといえはもうひとつ、先生が若者に負けないスポーツマンでもあったことは忘れられません。バレーボールで回転レシーブをするんだとご赴任間もなく私に語られたことが、きのうのこのように思い出せるのが不思議です。とにかく、日常の生活のなかでも、先生に教えられることが少なくありませんでした。

名誉教授となられたあと、なお暫くの間、非常勤で教壇にお立ち戴けるのを、せめての喜びしたいと思います。どうぞ、いつまでもご健康であらせられますように。